

錦上 添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
5月31日発行 NO.6
文責 出崎 友英

「表の努力」と「裏の努力」

皆さんは、桑田真澄さんを知っていますか？
桑田さんは高校時代にPL学園のエースとして甲子園で活躍し、その後プロ野球の読売ジャイアンツやアメリカ大リーグで活躍した元野球選手で、今は読売ジャイアンツの2軍監督をされています。

今週は、桑田さんが書かれた「心の野球」(幻冬社)という本から紹介します。

入学したPL学園は、清原選手(甲子園大会通算13本のホームランを打った)をはじめとする超高校級の選手が何人もいました。そんな中、桑田さんは出番も少なくなかなか活躍できません。

「自分は小さくて駄目だ。」と思うようになり、挫折してしまいます。そして「転校したい。」と母親に打ち明けます。しかし母親の「あきらめてはいけない。人生は何が起こるかわからないのだから絶対にあきらめてはいけないよ。」の言葉を受けて、今まで以上に努力を続けてみることにしました。

桑田さんによると、努力には「表の努力」と「裏の努力」の二種類があるそうです。

「表の努力」とは、野球でいえば体力づくりや打球、打撃練習といった野球がうまくなるための努力のことです。

「裏の努力」はトイレ掃除、雑草取り、ゴミ拾い、あいさつ、靴を並べる…といった野球とは直接関係のない努力のことです。もちろん、「裏の努力」をしたからといって、野球がうまくなることはありません。でも、その頃の桑田さんはどちらかといえば、トイレ掃除やあいさつなど「裏の努力」を一生懸命続けていました。

すると7月になって不思議なことが起こりました。

高校1年生の大阪府大会4回戦で、突然監督さんから初の先発に指名されます。

桑田さんは「裏の努力」はしていましたが、「表の努力」はほとんどできず、野球の実力は向上していないので、その試合では投げては投げて、打たれてしまいました。

ただ、いくらヒットを打たれても点を取られないのです。相手のいい当たりが、内野手の正面へ飛んでアウトになります。もうちょっとでホームランという打球が、フェンスの手前のところで風で戻ってきます。ヒット性のいい当たりが、味方のいい守備でアウトになります。そして、気がつけば9回を無失点に抑えて勝利投手になりました。その試合から桑田さんの快進撃が始まりました。そして気がつけば、1年生で夏の甲子園大会優勝投手になっていたのです。



「今思えば、きっと日々の小さな『裏の努力』の積み重ねのおかげだったのではないかな。そして人の見えないところでトイレ掃除や雑草取りなどの『裏の努力』をすることが、ここぞという時に運とツキをくれるのだ。」と桑田さんは言っています。

「『裏の努力』には、技術や才能は必要ありません。」これも桑田さんの言葉です。

部活動、頑張っています！

5月25日、26日は、多くの部活動で大会や発表会がありました。そして、男子バレー部が市選手権大会、野球部が体育堂旗大会でそれぞれ優勝しました。女子バレー部は市選手権大会でベスト8になり、男子とともに6月の県大会に出場します。合唱部は県合唱祭に出場し、上品な歌声を披露しました。市中総体(中体連)大会やコンクールに向けて、各部活動が頑張っています。



◆お知らせ・お願いです。

○5月17日、体育大会から帰宅中の3年生3人が、体調不良で道端に倒れていた人に気づいて声をかけて介抱してくれたというお礼の電話をいただきました。また、5月29日には「本日朝7時30分頃、1年生らしき生徒が、落ちているお菓子の袋を拾いながら登校していました。これはえらいなー、すばらしい生徒だと思って連絡させていただきました。」という内容のメールが学校に届きました。このような善行ができる生徒がいること、そしてそのことを学校にお知らせいただきたいことをとてもうれしく、ありがたく思います。

○5月27日(月)の授業参観・学級懇談会には多くの保護者の方々に来校いただきありがとうございました。

授業中の生徒たちの様子や学級の雰囲気はどうだったでしょうか。これからも、本校の学校行事など教育活動へのご参加・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



「やればできる」ではなくて、
「やらなきゃできない」なのです。「先生のコトバ集」より